



支部だより

北海道支部

2007年夏季研究発表会 in 旭川

2007年の北海道支部夏季研究発表会は、7月21日(土)午前9時から午後5時過ぎまで、旭山動物園で全国区となった旭川市の旭川工業高等専門学校を会場として開催された。この夏季研究発表会は、北海道支部が主催して毎年7月に行われている。共催は、日本分析化学会、高分子学会、日本エネルギー学会、石油学会、有機合成化学協会の各北海道支部、日本セラミックス協会東北・北海道支部及び触媒学会北海道地区であった。今年度は、特別講演2件をはじめ研究発表が151件と例年になく多く、参加者も272名と2006年函館での発表会の280余名に迫る大人数となった。七つの会場でのプロジェクターを使った口頭発表に対し、活発な質疑応答と議論がなされた。北海道支部では夏季、冬季の研究発表会において、優秀講演賞とポスター賞を設けて表彰することになっており、その審査対象となる発表の演者は力が入っていた。

一般の研究発表が終わった後、支部総会が行われ、嶋田志郎支部長から北海道支部の現状と活動報告がなされた。続いて、昨年と同様に本部の太田常務理事により日本化学会の状況説明がなされた。

特別講演

支部総会終了後に特別講演が行われ、日本化学会会長で、(財)神奈川科学技術アカデミー理事長、東京大学特別荣誉教授の藤嶋昭氏と長岡技術科学大学副学長の西口郁三氏のお二人を講師としてお

迎えることができ、ご講演をいただいた。藤嶋会長には昨年の夏季研究発表会でもご講演をいただき北海道支部の歴史的な出来事であったと報告されたが、今年も講師を快諾いただき有り難いことであった。

藤嶋会長の演題は、「科学的センスをみがこう—ファラデーのロウソクの科学に学ぶ—」であり、最も尊敬する研究者としてマイケル・ファラデーを挙げ、ロンドンの王立科学研究所での彼の講演記録である「ロウソクの科学」を取り上げてその感銘を語られ、ご自身の光触媒に関する研究とその応用的な発展の状況を紹介していただいた。朝顔の花がいつ咲くかというお話しもされ、多彩な内容であった。

西口氏の演題は、「電極またはMg金属からの電子移動による新規炭素結合形成反応」であり、氏が長年研究を続けられている有機化学分野における、温和な条件下簡便な操作で効率的かつ選択的に炭素-アシル化生成物が得られる電極還元反応及び金属Mgからの電子移動型の反応に関する研究成果をお話いただいた。

懇親会

特別講演終了後、旭川を代表するホテルであるグランドホテルに場所を移し、



写真1 特別講演をされる藤嶋会長



写真2 特別講演をされる西口氏

会長、西口氏をはじめ、常務理事、嶋田支部長を交えて懇親会が行われた。参加者は招待者を含め104名に達した。この参加人数はこれまでの新記録であり、会員相互の親睦を大いに深め盛会のうちに終了した。

おわりに、今年の夏季研究発表会を運営するにあたって実質的な力となった旭川工業高等専門学校の実行委員の皆さんをはじめ、ご協力をいただいた関係者各位に厚くお礼申し上げます。

〔2007年夏季研究発表会実行委員長 浅川哲弥(北海道教育大学旭川校)〕

©2007 The Chemical Society of Japan